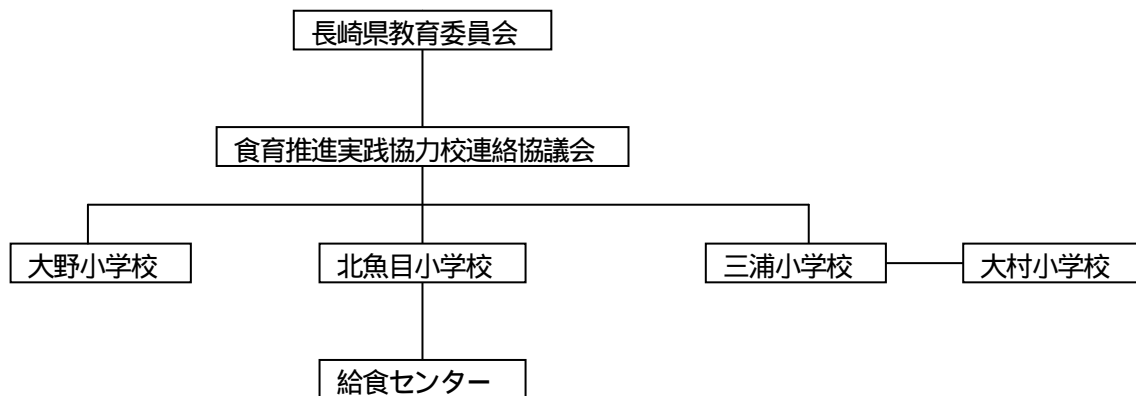


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	長崎県
推進地域名	全域

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校教育活動全体を通じた食育推進の方策

新学習指導要領に沿った各教科等での食に関する指導について、発達段階を踏まえた食育年間指導計画の整備や栄養教諭が指導にかかわる場面等の研究を実施した。

佐世保市立大野小学校の取組

1 教科等における食に関する指導を充実させるための取組

食に関してめざす児童像を明確にし、学年ごとに評価規準を設定

食をテーマに「学び合い」を軸にした授業の充実・改善

全クラスで研究授業を行うことで、児童が食についての意識を高めるとともに、学級担任と栄養教諭の連携による効果的な指導が実践できた。



学級活動：「食事のマナーを守ろう」



学級活動：「おやつについて考えよう」



社会科：「食料を支える人々」でのグループ学習



総合的な学習の時間：「変身大豆料理」

大村市立三浦小学校の取組

年間指導計画に基づいた食に関する指導の在り方

複数校の指導に当たる栄養教諭が、無理なく効果的に指導できるように、関連校の教職員と共に年間指導計画を検討・立案し、実践を重ねながら改善を図った。

研究授業の実践

学級担任と栄養教諭との連携により、栄養教諭の専門性を生かした効果的な授業の在り方を研究した。



栄養教諭と連携した授業実践



KJ法を用いた話し合い

テーマ2 学校・家庭・地域と連携した食育推進の方策

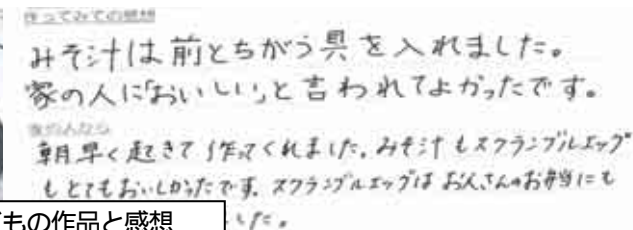
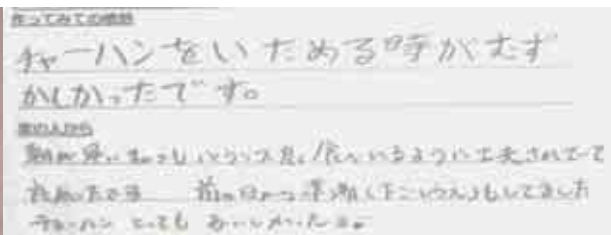
食育の基本は家庭にあるとの考えに立ち、保護者の食に対する意識の向上を図るための研究と、地域の専門家と連携した効果的な食育の在り方に関する研究を行った。

佐世保市立大野小学校の取組

食育の日の取組（「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」調査）

学校保健委員会での*FC（ファミリーチェック）カードの活用 *家庭生活の様子を親子で記入するカード
家庭と連携した家庭科学習

5・6年生の長期休業中の課題（家庭学習）として「家族のための朝ごはん作り」に取り組みさせた。学習ノートに保護者からのコメント欄を設けることで、保護者の意見を聞くことができ、児童の実践意欲も高まった。



子どもの作品と感想

新上五島町立北魚目小学校の取組

地域の専門家と連携した体験学習の実施

島地区という地理的な利点を生かし、五島の特産物である「あご」(トビウオ)について学習し、地元の漁協などの協力を得て「焼きあご作り」を実施・販売した。



あごについての学習



焼きあごの販売



地域理解のための体験学習の実施

今年度統合した小学校の校区を知る活動の一環として、「ドーナツ作り」を行った。

また、地域に定着したおやつ の歴史についても学習することで、地域理解につながった。



ドーナツ作り

「はっぴいカード」の活用

自分の生活リズムを見つめ直す機会として取り組んだ。実施することにより児童だけでなく保護者からも朝食の内容に関して問い合わせがきたり、反省の言葉が聞かれたりするなど、各家庭の意識の向上にもつながるとともに実態の把握ができ、その後の資料提供に役立てることができた。

テーマ3 関連校における栄養教諭の効果的な関わり方の方策

栄養教諭未配置校において、効果的に食育を推進する方策や、栄養教諭が関連校と連携を図り効果的に指導を行うための方策について研究した。

大村市立三浦小学校の取組

年間指導計画に基づいた食に関する指導の在り方

複数校の指導に当たる栄養教諭が、無理なく効果的に指導できるように、関連校の教職員と共に年間指導計画を検討・立案し、実践を重ねながら改善を図った。

「くいしんぼノート」の活用

児童と栄養教諭・調理員との連絡ノートとして、「くいしんぼノート」を活用している。栄養教諭の献立に対する思いや、食材についての話、クイズなどが記載されている。

また、児童にも献立に関する質問や感想等を記入させ、その返事を学級担任が読み聞かせている。

テーマ1～3に共通する具体的計画

1 研究推進のための協議会開催

事業における研究推進の在り方について、各実践協力校の研究内容や、それぞれの学校の実情等を踏まえ、効果的な実践方法等について協議した。

地区別教員研修会での発表内容や、パネルディスカッションの進め方等について打合せを行い、有意義な研修会にするための協議を行った。

2 実態把握のための調査実施

アンケート調査の実施

児童の実態等を把握し、効果的な指導を行うためにアンケート調査を行った。また、授業実施後の児童の変容

に着目し評価の参考とした。

3 地区別教員研修会開催による啓発活動

実践協力校がある市町及び近隣の市町を対象に県内3地区で研修会を実施した。

研修内容は、「学校における食育の推進について」の講義、実践協力校の実践発表、質疑応答、パネルディスカッションである。

研修対象者は、対象地区の小・中学校の管理職及び食育担当職員、栄養教諭等とし、3地区で約550名が参加した。

数字で変化のあった事項について

次は、実践協力校3校において実施したアンケート調査の結果である。

<児童の変容>

朝ごはん野菜を食べた児童の割合	23年6月	77.3%	24年1月	86.2%
家の仕事のお手伝いをした児童の割合	"	74.2%	"	87.7%
給食の残量の割合 (パン)	23年4月	5.3%	23年12月	3.2%
" (ごはん)	"	4.4%	"	2.2%
" (おかず)	"	4.6%	"	2.8%
" (副菜)	"	4.3%	"	2.2%

<教職員の意識>

24年2月に実施

食育への関心が高まったか	100%
子どもたちの変容をどうとらえているか	
・食への関心が高まっている	76%
・給食のマナーが良くなった	50%
効果があった取組は何か	
・栄養教諭による給食の時間の指導	97%
・" 研究授業	88%
・給食の時間の「もぐもぐタイム」の設定	76%
・食育の掲示資料	76%
・給食指導のローテーション (担任がクラスを変えて給食指導を行う)	62%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

地区別教員研修会を開催し、対象地域の小・中学校の管理職及び担当者の悉皆研修とすることで、各学校における食育推進の啓発を図ったこと。

食に関する興味・関心を高め、学校給食の食べ残しを減少させるために「もぐもぐタイム」の設定や「くいしんぼノート」の活用を行ったこと。

「はっぴいカード」や「FCカード」を活用した取組により、家庭との連携を図ることができ、保護者の食に対する意識が向上したこと。

栄養教諭が実践した指導内容を、引き続き学級担任が継続的に指導することとし、児童の変容につながったこと。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

発達段階を踏まえて、確かな実践力を育むための、小・中学校9年間を見通した指導の在り方
家庭での実践につなげるための家庭との連携や、地域の専門家と連携した効果的な食育の方策
栄養教諭未配置校における栄養教諭のかかわり方及び学級担任が実施する効果的な指導の在り方
各学校の実態等に即した特色ある食育全体計画、年間指導計画の作成